

## 答辞

肌をなでる風が温かな空気をまとい、私たちが新しく大きな一步を踏み出す季節。春は、もうそこまで来ています。

本日、ここに私たち二一一名の卒業式を開催していただき、ありがとうございます。そして、私たちの三年間を温かく見守ってくださった家族や先生、来賓の方々に今日のこの姿を見ていただけることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちの中学校生活を漢字一字で表すなら、私は「人」だと思います。この字は、倒れそうな人を他の人が支えている姿と、人間が歩んでいる姿の二つが表れている字です。この三年間には、私たちを成長させてくれたたくさんの「人」の姿がありました。

まずは、後輩のみなさん。直接その思いを伝えることはできませんが、あなたたちが頼りなかった私たちを「先輩」と呼んでくれたおかげで、少しずつその自覚が芽生え、模範となれるよう努力することができました。本当にありがとう。

私たちの登校や学校生活を温かく見守り、協力してくださった、地域のみなさん。毎朝の「おはよう」の声かけ、校門を入ると目に入る色とりどりの花が、私たちの中学校生活を鮮やかに彩ってくれました。ありがとうございました。

我慢を強いられ、でも受験という現実が近づいてくる毎日の中、不安で心が折れそうになる私たちを支えてくれた先生方。例年どおりにいかない中、それでもできる限りのことを私たちに経験させてくださったこと、そして、私たちに「自分の意思で考えて行動すること」を教えてくださいましたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

一番近くで私たちの思いを受け止めてくれた、家族。ぶつかることもあったし、かわいくないこともたくさん言っただけけれど、ここまで成長させてくれたこと、温かく見守ってくれたこと、本当にありがとうございました。ありがとうございます。さらに成長できるように努力していくので、これからもよろしく願います。

そして、三年間をともに過ごしてきた、最高の

仲間たち。不安でいっぱいだった入学式。社会の一員としての責任を、身をもって感じた職場体験。いっぱい泣いていっぱい笑った部活動。見学地を探して走り回った金沢自主研修。たくさんの経験の中で、一緒に成長してこられたことは、私の誇りです。しかし、最高学年になった私たちを待っていたのは、厳しい現実でした。二か月の自宅待機。誰かに会える訳でもなく、寂しい時間が流れていきました。楽しみにしていた行事も我慢しなくてはならなくなり、目に見えないウイルスを恨む毎日でした。

そんな中行われた運動会。例年とは異なる形ではありましたが、各団の団長を中心として一つとなる充実感、おそろいのTシャツを着て、同じ色のはちまきをつけて全力を尽くす楽しさ、時間の長さにも勝る中身の濃さ。この仲間だからこそ共有できたのだと思います。

合唱コンクールも我慢がいっぱいでした。練習の時はフェイスシールドとマスク着用。思うように声が出ず、音もなかなかとれない中、それでも、クラス一丸となって一つの目標に向かい、紡いだハーモニー。胸を張って「がんばった」と言い切れる歌声になりました。

そして、受験。自分の道を切り拓くための毎日

に疲れることもありましたが。でも、時には笑いながら、時には叱咤し合える仲間がいたから、がんばりきれたと思います。ともに目標に向かう三年の日々を歩み、支え合いながらたくさんの思い出を共有してくれた仲間と、かけがえのない絆に、心から感謝しています。仲間と会って笑って話すこと、学校に行って授業を受けること、おいしい給食をみんなで食べること。そんな、当たり前の大切さにも気づくことができた毎日は、本当に幸せでした。ありがとう。

これから先も、私たちの未来には多くの課題が待っています。その課題は、数学のようにただ一つの答えのあるものばかりではないかもしれません。一人の力では解決できないこともあるでしょう。でも私たちは、この三年間で、一人ひとりが自分で判断し、行動をする「人」になることができました。互いに協力し、支え合う「人」の姿を学んできました。これから、その学びを忘れず、人を思いやり、どうするべきかを判断して「考動」していきます。

そして、二一人の絆と、たくさんのみなさんからの支えを、未来への一步を踏み出す力に変

え、心を燃やして歩んでいくことをお約束し、答  
辞とさせていただきます。

令和三年三月一二日

卒業生代表 藤本 陽斗